

直交変換とその性質

今日の目標

直交行列とは

次回：二次形式の固有値

前回までの話

線形変換の固有値，固有ベクトル．
物事を固有ベクトル方向に分けて考えると後の話が単純になる．
固有値が複素数の場合：回転を表す

直交行列とは：

『直交行列による変換（直交変換）で，線分の長さや，線分どうしのなす角は変化しない』

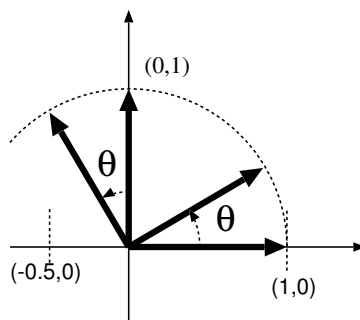
- 線分の長さが変化しない： $|Ax| = |x|$
- 線分どうしのなす角が変化しない： $\cos \theta = \frac{(x, y)}{|x||y|} = \frac{(Ax, Ay)}{|Ax||Ay|} \implies (x, y) = (Ax, Ay)$

例： x - y 平面で，角度 θ だけ回転する写像

変換行列が $A = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} \sqrt{3} & -1 \\ 1 & \sqrt{3} \end{bmatrix}$ であるような，変換．これは

$$A = \begin{bmatrix} \cos 30^\circ & -\sin 30^\circ \\ \sin 30^\circ & \cos 30^\circ \end{bmatrix}$$

となっており，原点 O を中心とする角 θ の回転移動を表す行列となっており，これは直交行列の例になっている．



A の固有値 λ を求めると，

$$\lambda = \frac{\sqrt{3} \pm i}{2} = \cos \frac{\pi}{6} \pm i \sin \frac{\pi}{6} = e^{\pm i\pi/6}$$

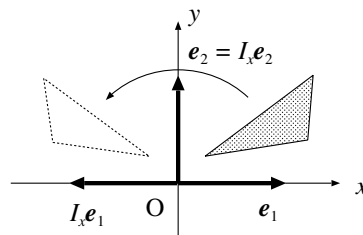
- 固有ベクトル e_1, e_2 は実数の範囲にない。 \implies 2次元平面を回転するのだから、方向が変わらないベクトルはない。二つの固有ベクトルも互いに複素共役で $e_2 = \bar{e}_1$ の関係にある。

回転と鏡映

鏡映によって、図形の形は変わらないが、向きが反転、裏返しになる。

例 1. x - y 平面で、 y 軸に関して対称に折り返す写像 I_x

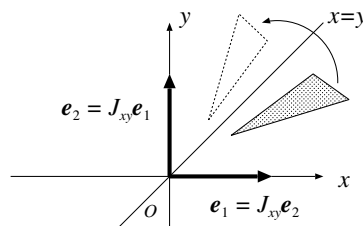
$$I_x = \begin{bmatrix} -1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$$



例 2.

x - y 平面で、 x 軸を y 軸に、 y 軸を x 軸にする写像。

$$J_{xy} = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}$$



一般（広義）の回転： 回転と鏡映をいくつか合成したもの

一般の回転は、任意の図形をそれと合同な図形に写像する。

\implies 線分の長さや、線分どうしのなす角はこの写像によって変化しない。

- 線分の長さが変化しない： $|Ax| = |x|$

- 線分どうしのなす角が変化しない： $\cos \theta = \frac{x \cdot y}{|x||y|} = \frac{Ax \cdot Ay}{|Ax||Ay|} \implies x \cdot y = Ax \cdot Ay$

$x \cdot y = Ax \cdot Ay$ が任意の x, y で成り立てば、 $y = x$ を代入すると、 $x \cdot x = Ax \cdot Ax = |x|^2 = |Ax|^2$ で $|Ax| = |x|$ が言える。

定理：直交行列

正方行列 U が直交行列であることは、次のように表すことができ、それらはどれも同値である。

1. 行列 U は一般の回転を表し、図形を合同な図形に写像し、線分の長さもなす角度も変えない。 \implies 行列式 $|U| = 1$ (この変換によって対応する領域の面積/体積が変化しない)
2. 任意の列ベクトル x, y に対し $(x, y) = (Ux, Uy)$ (内積の保存)
3. 任意の列ベクトル x, y に対し $|x| = \sqrt{(x, x)} = |Ux|$ (大きさの保存)
4. 行列 U の各列の要素を成分とする n 個の列ベクトルはすべて長さ 1 で、たがいに直交する。すなわち $(u_i, u_j) = \delta_{ij}$
5. $U^T U = U U^T = E$

$$U^T U = \begin{bmatrix} \mathbf{u}_1^T \\ \mathbf{u}_2^T \\ \vdots \\ \mathbf{u}_n^T \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \mathbf{u}_1 & \mathbf{u}_2 & \cdots & \mathbf{u}_n \end{bmatrix}$$

例： $U = \begin{pmatrix} \mathbf{u}_1 & \mathbf{u}_2 \end{pmatrix}$ の場合、内積が $(\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2) = 0$ となり、大きさ $|\mathbf{u}_1| = |\mathbf{u}_2| = 1$.

6. $U^T = U^{-1} \implies$ 逆行列を計算する手間が省ける

この直交行列による線形変換を、直交変換という

直交という名前の由来：行列を列の並びとみなしたとき、それがすべて直交しているから。

例：

$$\text{原点 } O \text{ を中心とする角 } \theta = 30^\circ \text{ の回転移動を表す行列 } U = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} \sqrt{3} & -1 \\ 1 & \sqrt{3} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos 30^\circ & -\sin 30^\circ \\ \sin 30^\circ & \cos 30^\circ \end{bmatrix}$$

は直交行列になっており、上の性質をすべて満たしている。

U^T は原点 O を中心とする角 $\theta = -30^\circ$ の回転移動を表す行列

$$U^T = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} \sqrt{3} & 1 \\ -1 & \sqrt{3} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos 30^\circ & \sin 30^\circ \\ -\sin 30^\circ & \cos 30^\circ \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos -30^\circ & -\sin -30^\circ \\ \sin -30^\circ & \cos -30^\circ \end{bmatrix}$$

となっており、 $U U^T = E$ となるのも直感的に理解できる。

双一次形式

次のベクトル x, y の実数値関数 $f(x, y)$ を考える。

$$f(x, y) = x^t F y$$

つまり、二つのベクトル x, y を入力すると一つの実数が出力される。

この関数は次のような線形性をもつことがわかる。

$$f(c_1 x_1 + c_2 x_2, y) = c_1 (x_1, y) + c_2 (x_2, y)$$

$$f(x, c_1 y_1 + c_2 y_2) = c_1 (x, y_1) + c_2 (x, y_2)$$

とする。このとき関数 f を 双一次形式 という。さらに対称性

$$f(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = f(\mathbf{y}, \mathbf{x})$$

をもつとき双一次形式 関数 f は対称であるという。双一次形式 関数 f が対称であれば行列 F は対称行列

$$F^t = F$$

である。

例：

$$f(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = 2x_1y_1 + x_1y_2 + x_2y_1 + 2x_2y_2$$

を行列を用いて、例えば以下のように書ける。

$$f(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = \mathbf{x}^t \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{bmatrix} \mathbf{y}$$

2次形式

$$f(\mathbf{x}, \mathbf{x}) = \mathbf{x}^t F \mathbf{x}$$

を2次形式という。当然、 F は対称行列になる。

例：

$$f(\mathbf{x}, \mathbf{x}) = 2x_1^2 + 2x_1x_2 + 2x_2^2$$

を行列を用いて

$$f(\mathbf{x}, \mathbf{x}) = \mathbf{x}^t \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 2 \end{bmatrix} \mathbf{x}$$

と書ける。

例：内積 (\mathbf{x}, \mathbf{y}) は対称な双一次形式

基底が正規直交系の場合、

$$(\mathbf{x}, \mathbf{y}) = \mathbf{x}^t E \mathbf{y} = \mathbf{x}^t \mathbf{y}$$

内積となるには以下の正値性も必要：

$$(\mathbf{x}, \mathbf{x}) = \mathbf{x}^t G \mathbf{x} \geq 0 \text{ 等号は } \mathbf{x} = 0 \text{ のときにかぎる}$$